

平成28年度

6年1部 学級通信

第108球

11月22日(火)

チーム★ファイナル TEAM

カリンの木に願いを込めて「樹勢回復」に挑む

～手作りの炭と腐葉土、そしてカリンと共生する菌根菌を使って樹勢回復～



自分たちで作った炭を土の中に入れる高島小児童

選挙権年齢が18歳以上になつて初の国政選挙だった7月の参院選で、市内10代の投票率は42・81%。市全体の62・73%を下回るなど若年層の投票率向上策が課題になっている。啓発活動は18日に諏訪南中で行った。残りの市立2中学校は日程を調整している。

んできた。市木のカリンの木の樹勢回復を通して、森林環境の問題に対してさらに意識を高め、学習していく狙いがある。

樹木医の若林悠平さんらが指導役となり、木周辺の土に溝や穴を掘り、新鮮な空気を土の中に送り込む構造を作ったり、土に自分たちで作った炭や菌根菌を混ぜたりして、木の発根促進を図った。

阿部豪斗君(12)は「溝や穴を掘る作業は土の中に石が多くあり大変だった。今回の作業で木が丈夫になり、きれいな実を付けてほしい」と願っていた。

カリンの木 もっと丈夫に

高島小6年生 湖岸線沿いで作業

諏訪市高島小学校6年生35人は17日、市道湖岸線沿いにあるカリン並木で「カリンの樹勢回復作業」を行った。日赤病院前の信号機周辺の9本のカリン(マル

メロ)の木を対象に土壌環境を整えた。

白紙単元学習「森林再生プロジェクト」の一環。児童たちはこれまで炭を活用した植物の育成について学

菌根菌って何だろう。今年の4月の白紙は炭と菌根菌の働きについての学習から始まりました。菌根菌が樹木の根と共生している様子を顕微鏡で観察したり、実際に菌根菌を土の中に入れて菌系の増え方を調べたりしてきました。子どもたちの学習が少しずつ行政や専門家、実践者の方に伝わっていき、先週は樹勢回復活動が実現しました。樹木医の若林先生や井出先生、諏訪市役所公園緑地課の方々と一緒に活動しました。

《子どもたちの樹木医の方へのお礼の手紙より抜粋》

弱ったカリンの木を元気にするために、6年1部と最後まで一緒に活動してくださいありがとうございました。世界にとっても「いい」、諏訪の未来にとっても「いい」、木を元気にするという活動をこれからも続けていきたいと思えます。響さん

今日はとっても大変でしたが、みんなでがんばりました。最後の仕上げをやっていただきありがとうございました。また、道具を学校まで届けてくださりありがとうございました。また、新しい知識を学ばせてください。そして、協力してほしいことなどあればどんどん言ってください。協力します。また、菌根菌を見せてください。待っています。また会いたいです。巧真さん

昨日は樹勢回復作業ありがとうございました。私は日赤病院の前のカリンの木が元気になるうれしいと思えます。病院のかん者さんやお見舞いに来た人が、きれいに咲いているカリンの花を見たらうれしい気持ちになると思えます。

菌根菌の話、炭の効果についての話など、とても分かりやすかったです。私たちの炭と腐葉土、そして若林さんが準備してくださった菌根菌を使ってカリンの木を元気にしようと、諏訪のことを考えてがんばれたことがうれしかったです。

ぜひ、よかったら、卒業式までにどこかの樹勢回復ができたらいいです。もっと、木や森を大切に、森も木も人間もすべてがうれしい気持ちになれたらいいなと思えます。

私たちはスマートグラスを使って地域のみなさんに森の大切さをわかってもらえるようにプレゼンテーションをがんばります。ありがとうございました。帆乃香さん

炭を焼き続けたグループ、間伐材や森の恵みを使って循環を考えるものづくり部、樹木の育ちについて調べ、地域へ発信してきたチーム、観察や実験をしながら調べたことを試してきた実験部など、それぞれに活動を決め出して取り組んできました。そして、全チームの学習の成果を集中させ、共通の活動となった「樹勢回復」。私も子どもたちの白紙のおかげで本当に貴重な体験をさせてもらいました。10年後、20年後のカリンの木を想像すると、何とも言葉にできない「わくわく感」がこみ上げてきます。

今年の白紙で勉強になったことは何かな？最後にみんなに聞いてみたい質問です。

(文責：大畑)

